

宇宙開発の現状報告

(平成23年2月2日(水)～平成23年2月15日(火))

平成23年2月16日
宇宙開発委員会事務局

宇宙開発に関する国内の動向

- 「きぼう」を利用した社会課題の解決を目指すアイデア提案の選定結果について

JAXAは、ISSの「きぼう」日本実験棟を利用して、社会の課題解決につながる実用的な成果を創出することを目指して、フィジビリティスタディテーマを募集し、選考の結果、下記の4件を選定したと2月14日(月)に発表した。今後フィジビリティスタディ作業を行い、宇宙実験計画書(案)を作成し、きぼう利用フェーズへの移行可否を、JAXA及びJEM応用利用推進委員会にて評価することになる。

テーマ名	代表研究者
超高齢化社会に適用可能な機能性宇宙食の開発とその応用	(独)国立健康・栄養研究所 石見佳子
安心、安全な暮らしを支える高品質な睡眠をはかる総合研究	(社)日本睡眠学会 大川匡子
ISS 滞在型・情報発信ロボット	(株)電通 西嶋頼親
全体位対応の節水型排泄支援装置	シー・エス・ピー・ジャパン(株) 吉田哲二

宇宙開発に関する海外の動向

- ロケットロケットによる測地衛星の軌道投入に失敗 【露】
2月1日(火)14時00分(世界標準時、以下同じ)、露フルニチエフ社は、プレセツク射場より、ロケット/ブリーズ KM ロケットにより、ロシアの測地衛星「GEO-IK-2」シリーズの1機目の打上げを実施した。報道によると、同衛星は、予定されていたブリーズ KM 上段の2回の点火が行われず、予定された軌道に投入されていない。
- NASAの系外惑星探査機「ケプラー」、新たな科学データを公開 【米】
2月2日(水)、NASAは、系外惑星探査機「ケプラー(Kepler)」による最新の科学データから、1,235個の惑星候補が発見されたと発表した。そのうちハビタブルゾーン(いわゆる生命居住可能領域)には54個の惑星候補が存在し、うち5個は地球とほぼ同じ大きさで、残る49個は地球の2倍程度から木星以上の大きさのものがある。同5個が惑星かどうかは、今後確認が進められる。
また、同探査機が、恒星「Kepler-11」の周囲を公転する6個の惑星を発見したことも発表した。この恒星は太陽系外でこれまで発見された恒星の中で、最多の惑星数を持つものとなる。
- ミノタウロスロケットによる軍事衛星の打上げに成功 【米】
2月6日(日)12時26分、米国オービタル・サイエンシズ(OSC)社はバンデンバーグ空軍基地より、ミノタウロス1ロケットを打上げ、米国家偵察局(NRO)の軍事衛星「NROL-66」の所定の軌道投入に成功した。